

連載

## 日本の観光洞 -28

水島 明夫 (MIZUSHIMA, Akio)※

### 岡山県 - 2 Okayama - ken

前回から入った岡山県の第2弾です。

でまず、修正の連絡を。前号で岡山県には5つの観光洞が・・・としていましたが、実は7つもありました。“諏訪の穴”と“神代の鬼の穴”の2つを追加いたします。2つとも、入洞料無料で営利目的の観光洞ではなく、自由に見ることができます。1987年日本ケイビング協会発行の「日本の観光洞(石灰洞)リスト」の観光洞の定義、“照明設備がある。もしくはそれに代わる照明などの貸し出しがあること。そして、特別の服装・装備などが要らないこと。”と言う定義には充分あてはまるというわけです。詳しくは岡山県の最終回で。

今回は“満奇洞”“備中鐘乳穴”に行きます。なお“備中鐘乳穴”については、ケイビングジャーナルとしてNo.が付く前のEARLY SPRING 95(1995.1.30.発行)に載せたものを再掲載したものです。持っている方も少ないと思ひまして、あしからず。

#### 41. 満奇洞 Maki-dou

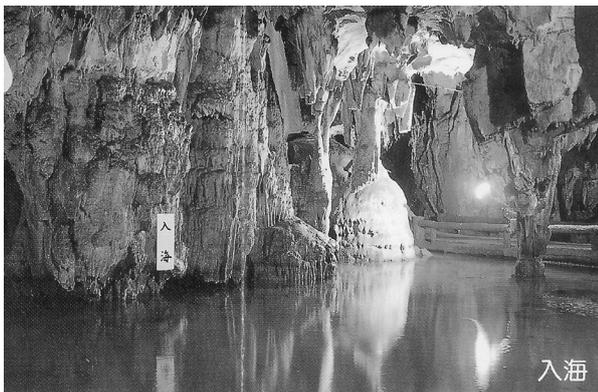
横穴・全長 550m

##### <特 色>

さほど大きくない洞窟だが、その二次生成物の豊富さは、さすが岡山の洞窟という感じだ。しかし何と言っても“満奇洞”の面積の1/3を占める広いプールの水が“満奇洞”独特の雰囲気を作り出している。

“井倉洞”が滝に代表される「動」の水ならば“満奇洞”はプールに代表される「静」の水である。

日本には“満奇洞”と同じパターンの洞窟は他になく、一度は入ってみたい。県指定天然記念物。



満奇洞パンフレットより

##### <所在地>

岡山県新見市豊永榎 TEL 0867-74-3100

##### <交通>

JR伯備線新見駅より、井倉駅経由で満奇洞行きのバスがある。終点で下車後は案内板に沿って坂を登ると容易に着く。新見駅からは約1時間、井倉洞からは約30分。

##### <管理者>

新見市商工観光課 TEL 0867-72-6136

##### <概要>

洞口は狭く、潜り込むように中へ入ると急に広がる。この広さを利用して休憩できるようになっており、夏は天然のクーラーのようなもの、外になかなか出られないでしょう。この広いホールをあちこちに石柱など二次生成物が発達しており、さすが閉鎖型の洞窟、この穴はただ者ではないぞ、との予感がする。

やがて、「洞門」と呼ばれるところから、幅、天井高とも急に狭くなる。途中「千枚田」のリムストーンは見事である。



「泉水」のあたりから洞幅、天井高ともに大きくなり、満奇洞で最も大きなホールになる。二次生成物はカーテン、つらら石、石筍、石柱なんでもござれという感じで、全面二次生成物に覆われているかのようなのである。そして、洞床は広大な面積のプールで、非常に神秘的な雰囲気をかもし出している。特に最奥部の「夢の宮殿」、「竜宮」付近は圧巻である。

このように“満奇洞”は、入口付近と奥部の2つのホールと、そのホールをつなぐ狭洞部の3つの部分に分けられる。1982年、大阪教育大学の馬場・守田先生等は断層などの構造支配を報告している。確かに、洞内各所でNW系の直線的に続く石筍、石柱群が目につく。また1970年代に洞くつ団研グループは、